

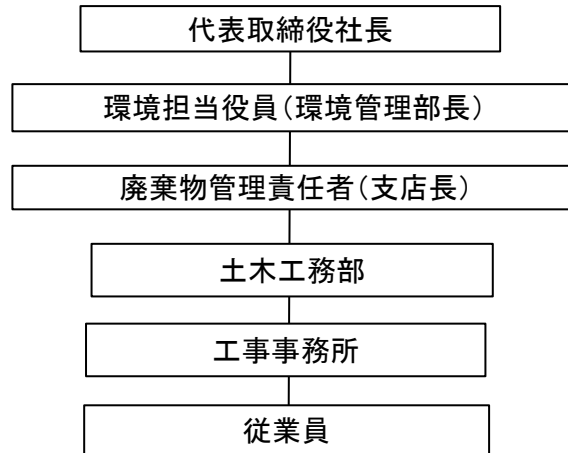
様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
平成〇年〇月〇日	
高知県知事 殿	
提出者 住 所 〇〇 氏 名 〇〇 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 〇〇	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	建設工事現場の主な名称（他〇件） （マニフェストに記載の発生現場を参考に記入）
事業場の所在地	〇〇市（高知市内を除く高知県内他〇件）
計画期間	平成〇年4月1日～平成〇年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業、製造業、通信業、「医療、福祉」 など （日本標準産業分類の区分を記載）
②事業の規模	建設業：元請完成工事高〇〇円（前年度実績）、製造業：製造品出荷額〇〇円（前年度実績）、通信業：営業収益〇〇円（前年度実績）、医療：病床数〇〇床（前年度末時点） など
③従業員数	〇〇人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>【品目ごとに発生から最終処分までの工程（委託を含む。）を記入】 (例) ○建設工事で発生したがれき類は、収集運搬業者及び再生処理業者（破砕）に委託し、再生砕石として再資源化されます。 ○木材製造業で発生した木くずは、収集運搬業者及び再生処理業者（破砕）に委託し、燃料用チップとして再資源化されます。 ○建設工事で発生した建設混合廃棄物（金属くず、廃プラスチック類、木くず、紙くずの混合物）は、収集運搬業者及び処分業者に委託します。金属くずは再生処理業者（圧縮）で再資源化。その他の産業廃棄物は処分業者（焼却、埋立）で最終処分されます。 ○自己処理：建設工事で発生したがれき類は、自らの破砕施設に収集運搬後、再生砕石として再資源化します。 ○委託処理（特別管理産業廃棄物の事例）：病院で発生した感染性産業廃棄物は収集運搬、処分（減容減菌、焼却）を行い、中間処理後の燃え殻は最終処分業者（埋立）で処理されます。</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	紙くず	廃プラスチック類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	
	排出量	100t	100t	100t	100t	100t	
	産業廃棄物の種類	繊維くず	金属くず	木くず	がれき類	建設混合廃棄物	
	排出量	100t	100t	100t	100t	100t	
	(これまでに実施した取組) (例) ○従業員を対象に廃棄物の発生抑制に係る教育を行っています。 ○建設資材の長期使用、修理等を行い、廃棄物の排出を抑制しています。 ○設計・施工段階から廃棄物の発生の少ない工法を選択、利用しています。 ○製造工程を見直し、歩留まりの向上を図り、廃棄物の排出を抑制しています。 ○原料の調達・選定の段階から省資源梱包の商品を購入しています。						
	②計画	【目標】					
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	紙くず	廃プラスチック類	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
		排出量	100t	100t	100t	100t	100t
		産業廃棄物の種類	繊維くず	金属くず	木くず	がれき類	建設混合廃棄物
排出量		100t	100t	100t	100t	100t	
(今後実施する予定の取組) (例) 現状の取組のとおり今年度も実施予定です。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (例) ○従業員が排出する生活系ごみ(弁当、ペットボトル等)は、一般廃棄物として持ち帰るよう、分別に係る教育を行っています。 ○木くずは、再生利用業者(破砕)で再資源化するため優先的に分別しています。 ○がれき類、木くず及び廃プラスチック類は保管容器で種類ごとに分別し、分別できないものは混合廃棄物(木くず、紙くず及び繊維くず)として処理しています。 ○(特別管理産業廃棄物の場合)感染性産業廃棄物について、性状に応じて専用のごみ容器(鋭利なもの、固形状のもの、液状又は泥状のもの)で分別しています。
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (例) 現状の取組のとおり今年度も実施予定です。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (例) 現状の取組のとおり今年度も実施予定です。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） （例）実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） （例）特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
（これまでに実施した取組） （例）実績なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） （例）特になし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】					
	産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) (例) 実績なし					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) (例) 特になし					

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成〇〇年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	紙くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	100t	100t	100t	100t	100t
	優良認定処理業者への処理委託量					
	再生利用業者への処理委託量		100t			
	認定熱回収業者への処理委託量					
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	産業廃棄物の種類	繊維くず	金属くず	木くず	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	100t	100t	100t	100t	100t
	優良認定処理業者への処理委託量					
	再生利用業者への処理委託量		100t	100t	100t	
	認定熱回収業者への処理委託量					
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	(これまでに実施した取組) (例) ○委託基準に従い、産業廃棄物処理業者を選定し、契約しています。 ○委託契約書及びマニフェスト（A、B2、C2、D、E）について、適正に記載されていることを確認して5年間保管しています。 ○委託先は、再生利用業者及び認定熱回収業者を優先的に選定し、リサイクルの推進に取り組んでいます。 ○委託先は、優良認定処理業者を優先的に選定し、インターネットで公表されている産業廃棄物の処理状況を定期的に確認しています。 ○委託先について定期的に実地確認を行い、産業廃棄物の処理及び保管状況を確認、記録し、より適正な処理業者を選定しています。 ○委託先については、インターネットで公表されている産業廃棄物の処理状況及び維持管理状況等の情報から、委託する産業廃棄物の処理が行われていることを確認、記録しています。					

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	紙くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	100t	100t	100t	100t	100t
	優良認定処理業者への処理委託量					
	再生利用業者への処理委託量		100t			
	認定熱回収業者への処理委託量					
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	産業廃棄物の種類	繊維くず	金属くず	木くず	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	100t	100t	100t	100t	100t
	優良認定処理業者への処理委託量					
	再生利用業者への処理委託量		100t	100t	100t	
	認定熱回収業者への処理委託量					
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	(今後実施する予定の取組) (例) ○現状の取組のとおり今年度も実施予定です。 ○再生利用業者、優良認定処理業者又は認定熱回収業者をできる限り選定し、委託していく予定です。 ○委託先については、産業廃棄物の処理状況を定期的に確認、記録し、より適正な処理業者を選定していく予定です。					
	※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。